

# 2024年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	作業療法概論		学科名	作業療法学科	講師名	河本 敦史
時間数	15時間				実務経験の有無	作業療法士として急性期病院等で実務経験あり
学年・学期配当	1年次	2年次	3年次		前期	後期 通期
目的・ねらい	作業療法は、その対象、領域、手段が多岐にわたるが、全てに共通していることは、対象者の意味のある作業の獲得によって、人類の福祉に貢献することを目的としている点である。学生たちがこのことを理解し、実践できる作業療法士になることが本講義のねらいである。					
授業全体の内容の概要	意味のある作業は対象者によって異なり、対象者の生活史を把握するためには豊かな人間性が必要となってくる。本科目では、作業療法の評価や治療のプロセス、各領域のアウトラインを理解し、社会に貢献し得る作業療法を学ぶ学生としての自覚を促す。					
授業修了時の達成課題(到達目標)	作業療法の定義を説明することができる。作業療法の歴史、概念や大まかなプロセスについて言及することが可能。					
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	作業療法の生い立ち、ガイダンス、自己紹介			
	2	講義	我が国における作業療法の発展			
	3	講義	作業療法の現在			
	4	講義	作業療法実践の枠組み			
	5	講義	作業療法モデル論			
	6	演習	作業療法モデル論 演習			
	7	講義	作業療法の進化			
	8	演習	集団討議			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験を実施 筆記試験 (有)・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等	作業療法の世界 作業療法を知りたい・考えたい人のために 三輪書店					
評価方法	実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、学生の理解を徹底する。成績評価は、期末試験、出席状況、受講態度をもって判定する。期末テストは、筆記テストを実施する。判定に際しては、期末テストは8割、そして出席状況および受講態度は合算し2割で成績判定する。					

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

# 2024年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科 目 名	作業学実習 I			学 科 名	作業療法学科	講 師 名	湯原 多香子	
時 間 数	45時間					実務経験の有無	作業療法士として病院や地域事業所にて実務経験あり	
学 年 ・ 学 期 配 当	1年次	2年次	3年次	前 期	後 期	通 期		
目 的 ・ ね ら い	作業療法で用いられる諸活動の工程を理解し、患者への導入や用い方、その活動（作業）がもつ意味を理解する。							
授 業 全 体 の 内 容 の 概 要	作業療法で実践される手工芸等の作業活動を実際に体験する授業の過程において、生物学的、心理的、社会的な知識と技術の体系を習得する。製作など様々な活動を通して、作業の特質や知識、技術や指導法を習得する。作業をする対象者との関わりも体験する。							
授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 ( 到 達 目 標 )	1 活動の工程を説明できる。2 活動に必要な道具を列挙し、その使用法を説明できる。 3 活動に必要な材料を列挙し、その使用法を説明できる。4 各工程の留意事項を列挙できる。 5 課題に出された作品を完成させることができる。 6 材料・道具・作品の扱いに責任を持ち手入れ及び保管ができる。 7 工程を通して作業分析を行い治療的意味を理解する。 8 終了に際し作業の後始末と作品の管理について責任をもって行うことができる。 9 活動を通じて、制作、創造、自己を表現ができる。							
指 導 計 画	回	形 態	内 容					
	1	講義・演習	クラフト実践					
	2	講義・演習	クラフト実践					
	3	講義・演習	クラフト実践					
	4	講義・演習	クラフト実践					
	5	講義・演習	クラフト実践					
	6	講義・演習	クラフト実践					
	7	講義・演習	クラフト実践					
	8	講義・演習	クラフト実践					
	9	講義・演習	クラフト実践					
	10	講義・演習	クラフト実践					
	11	講義・演習	作業療法の実践					
	12	講義・演習	作業療法の実践					
	13	講義・演習	作業療法の実践					
	14	講義・演習	作業療法の実践					
	15	講義・演習	作業療法の実践					
	16	講義・演習	作業療法の実践					
	17	講義・演習	作業療法の実践					
	18	講義・演習	作業療法の実践					
	19	講義・演習	作業療法の実践					
	20	講義・演習	作業療法の実践					
	21	講義・演習	作業療法の実践					
	22	講義・演習	作業療法の実践					
	23	講義・演習	作業療法の実践					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有)・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。					
テ キ ス ト ・ 参 考 図 書 等	作業活動実習マニュアル 第2版 (株) 医歯薬出版 古川宏							
評 価 方 法	試験90% 出席・授業態度10%							

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2024年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	作業療法評価学 I (身体障害)		学科名	作業療法学科	講師名	青山 信一
時間数	60時間				実務経験の有無	作業療法士として急性期病院、回復期病院等で実務経験あり
学年・学期配当	1年次	2年次	3年次	前期	後期	通期
目的・ねらい	作業療法実践にあたり必要となる評価法について基礎的な知識、技術を習得する。					
授業全体の 内容の概要	習得の際は知識、技術共習熟するよう計画する。疾患・症状を踏まえながら、生活を再建するために作業療法に必要な身体機能、日常生活活動、生活環境などの評価計画の立て方、評価結果の解釈を学習する。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)	作業療法実践において、適切な評価を選択、実施でき、得られた結果の解釈ができるようになる。					
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	オリエンテーション、作業療法と評価、再評価と作業療法の効果判定			
	2	講義/演習	記録、報告の意義と特徴、面接法・観察法、血圧、反射			
	3	講義	摂食・嚥下機能検査、排泄機能評価			
	4	講義	関節可動域測定①			
	5	講義	関節可動域測定②			
	6	演習	関節可動域測定③			
	7	演習	関節可動域測定④			
	8	演習	関節可動域測定⑤			
	9	演習	関節可動域測定⑥			
	10	演習	関節可動域測定⑦			
	11	演習	関節可動域測定⑧			
	12	演習	関節可動域測定⑨			
	13	演習	関節可動域測定⑩			
	14	演習	関節可動域測定⑪			
	15	演習	関節可動域測定⑫			
	16	演習	関節可動域測定⑬			
	17	演習	関節可動域測定⑭			
	18	演習	関節可動域測定⑮			
	19	演習	関節可動域測定⑯			
	20	演習	関節可動域測定⑰			
指導計画	21	講義	上肢機能検査①			
	22	講義	上肢機能検査②			
	23	演習	上肢機能検査①			
	24	演習	上肢機能検査②			
	25	講義	日常生活活動の評価①			
	26	講義	日常生活活動の評価②			
	27	演習	日常生活活動の評価③			
	28	演習	日常生活活動の評価④			
	29	演習	日常生活活動の評価⑤			
	30	講義	まとめ			
テキスト・参考図書等	原則、筆記試験の実施 筆記試験 有、無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。					
評価方法	①標準作業療法学：作業療法評価学 ②PT・OTのための測定評価 ROM測定 ③日常生活活動学 (ADL) 適宜、資料を配布します。 関節可動域測定実技時の服装は実習着、ゴニオメーター、バスタオルを持参してください。 毎回、事前に指示をした箇所のweb動画を必ず視聴して臨んで下さい。実技試験の日程は別途指示します。					
	実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失います。 成績評価は、試験をもって判定する。成績は座学講義分の筆記試験 (70点分) と関節可動域測定の実技試験 (30点分) で算定します。					

※形態は、講義・演習・実習 (施設/企業等)

# 2024年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科 目 名	作業療法評価学Ⅲ (発達障害)		学 科 名	作業療法学科	講 師 名	沖本 さやか	
時 間 数	15時間				実務経験の有無	作業療法士として放課後デイサー ビス・特別支援学校にて実務経験 あり	
学 年 ・ 学 期 配 当	1年次	2年次		前期	後期	通期	
目 的 ・ ね ら い	小児・発達障害領域における作業療法の理念や役割を知ること。また、小児特有の評価方法の種類と選定方法について学ぶ。						
授 業 全 体 の 内 容 の 概 要	小児の正常発達、原始反射について概説する。 また、情報収集や評価（面接・監察・検査測定）について、作業療法における視点から実践するための知識を身に付ける。						
授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 ( 到 達 目 標 )	1. 正常発達が理解できる 2. 作業療法における情報収集と評価について概説できる						
指 導 計 画	回	形態	内 容				
	1	講義	発達障害領域の作業療法				
	2	講義・実践	正常発達と原始反射①				
	3	講義・実践	正常発達と原始反射②				
	4	講義	子どもの発達と作業療法①				
	5	講義	子どもの発達と作業療法②				
	6	講義	子どもの発達と作業療法③				
	7	講義	発達障害領域の評価①				
	8	講義	発達障害領域の評価②				
				原則、筆記試験の実施 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> ・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。			
テ キ ス ト ・ 参 考 図 書 等	作業療法学ゴールドマスターテキスト第3版発達障害作業療法学：メジカルビュー社						
評 価 方 法	試験65% レポート課題25% 出席・授業態度10%						

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

# 2024年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	作業療法治療学Ⅰ (身体障害)		学科名	作業療法学科	講師名	河本 敦史
時間数	90時間				実務経験の有無	作業療法士として急性期病院等で実務経験あり
学年・学期配当	1年次	2年次	3年次		前期	後期 <span style="text-align: center;">通期</span>
目的・ねらい	身体障害領域において、今まで培った疾患の知識や評価の技能に基づき、適切に作業療法を実践する能力を身につける。					
授業全体の内容の概要	作業療法の現場において、即応性のある事象によっては評価と介入が表裏一体である側面がある。その内容に関しては評価結果に基づく介入方法を学ぶ。また、理論に基づいて作業療法のプロセス(評価→目標立案→プログラム実施)を進めることを学ぶ。					
授業修了時の達成課題(到達目標)	評価に基づいた介入が可能。理論に基づいた作業療法実践が可能。総合臨床実習において、学んだ内容を活用することができる。					
指導計画	回	形態	内 容			
	1	演習	オリエンテーション			
	2	講義・演習	意識障害、バイタルサイン、感覚障害への作業療法①			
	3	講義・演習	意識障害、バイタルサイン、感覚障害への作業療法②			
	4	講義・演習	姿勢反射検査、筋緊張検査に基づいた作業療法①			
	5	講義・演習	姿勢反射検査、筋緊張検査に基づいた作業療法②			
	6	講義	協調性検査、QOLの評価と介入①			
	7	演習	協調性検査、QOLの評価と介入②			
	8	講義	脊髄損傷者への作業療法①			
	9	講義	脊髄損傷者への作業療法②			
	10	演習	脊髄損傷者への作業療法③			
	11	講義	上肢末梢神経損傷者への作業療法①			
	12	演習	上肢末梢神経損傷者への作業療法②			
	13	講義	内部疾患、腱損傷者への作業療法①			
	14	演習	内部疾患、腱損傷者への作業療法②			
	15	講義	まとめ、学習内容の振り返り			
	16	講義	ICFについて①			
	17	講義	ICFについて②			
	18	演習	ICFの活用方法①			
	19	演習	ICFの活用方法②			
	20	講義	COPM①			
21	講義・演習	COPM②				

指導計画	22	演習	COPM③	
	23	演習	COPM④	
	24	講義	AMPS①	
	25	講義・演習	AMPS②	
	26	演習	AMPS③	
	27	演習	AMPS④	
	28	講義	生活行為向上マネジメント①	
	29	講義	生活行為向上マネジメント②	
	30	講義	生活行為向上マネジメント③	
	31	演習	生活行為向上マネジメント④	
	32	演習	生活行為向上マネジメント⑤	
	33	演習	生活行為向上マネジメント⑥	
	34	講義	OTIPM①	
	35	講義	OTIPM②	
	36	演習	OTIPM③	
	37	演習	OTIPM④	
	38	演習	OTIPM⑤	
	39	演習	OTIPM⑥	
	40	講義・演習	事例報告の書き方①	
	41	講義・演習	事例報告の書き方②	
	42	演習	事例報告の書き方③	
	43	演習	事例報告の書き方④	
	44	演習	事例報告の書き方⑤	
	45	演習	事例報告の書き方⑥	
				原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有)・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。
		テキスト・参考図書等		標準作業療法学：作業療法評価学【第3版】、身体機能作業療法学【第3版】 OT I P M (Occupational Therapy Intervention Process Model) 作業療法介入プロセスモデル 事例で学ぶ生活行為向上マネジメントマネジメント COPM・AMPSスターティングガイド 日常生活活動(ADL)【第2版】
		評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失う。成績評価は、試験、出席状況、受講態度をもって判定する。 中間、終講試験が60点以上を合格とし、成績判定における配分は8割とする。適宜行われる小テストなどの成績判定における配分は1割とする。 出席状況、受講態度の成績判定における配分は1割とする。 尚、授業内容など、予定を変更する場合がある。

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

# 2024年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科 目 名	作業療法評価学Ⅳ (発達障害)		学 科 名	作業療法学科	講 師 名	沖本さやか
時 間 数	30時間				実務経験の有無	作業療法士として放課後デイサー ビス・特別支援学校にて実務経験 あり
学 年 ・ 学 期 配 当	1年次	2年次	3年次		前期	後期  通期
目 的 ・ ね ら い	小児・発達障害領域における作業療法の対象疾患別の治療方法と介入ポイントについて理解する。					
授 業 全 体 の 内 容 の 概 要	小児・発達障害領域における作業療法の対象疾患について理解を深める。また、各対象疾患における具体的な治療目標や介入方法とその考え方について概説する。					
授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 ( 到 達 目 標 )	1. 各対象疾患の特徴について理解する 2. 作業療法の目標、具体的な介入方法について計画できる					
指 導 計 画	回	形態	内 容			
	1	講義	オリエンテーション			
	2	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ①			
	3	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ②			
	4	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ③			
	5	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ④			
	6	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ⑤			
	7	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ⑥			
	8	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ⑦			
	9	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ⑧			
	10	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ⑨			
	11	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ⑩			
	12	講義	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ⑪			
	13	講義	家族・地域を含めた支援①			
	14	講義	家族・地域を含めた支援②			
	15	講義	家族・地域を含めた支援③			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 0 2px;">有</span> ・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。			
テ キ ス ト ・ 参 考 図 書 等	作業療法学ゴールドマスターテキスト第3版発達障害作業療法学：メジカルビュー社					
評 価 方 法	試験90% 出席・授業態度10%					

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）